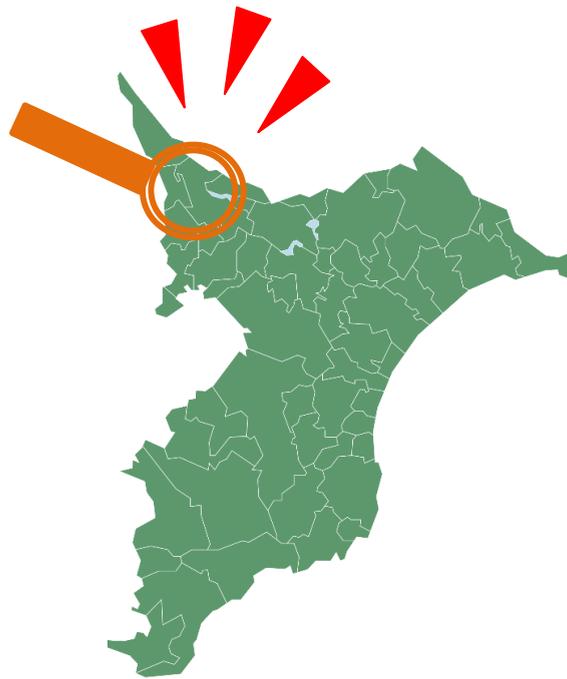


2023・2

# 柏の景気情報

令和5（2023）年2月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和5年2月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

回答期間:令和5年2月21日～令和5年3月2日 調査対象: 柏市内142事業所及び組合にヒアリング、回答数91

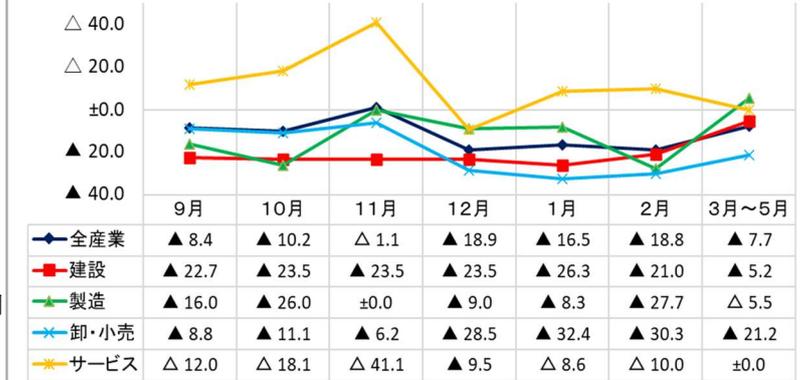
**原材料高騰の影響強く全産業DIは悪化。先行きはマスク着用緩和等、活動正常化に期待感あるも人手不足の声も多く回復厳しい**

2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.8(前月水準▲16.5)となり、マイナス幅が2.3ポイント拡大した。

建設業では人手不足により人件費増、物価高騰により受注が減少した。また、製造業では半導体不足や光熱費高騰等による採算悪化で大きくマイナス。一方で卸・小売業からは、旅行関連商品の好調や入店客数等がコロナ前を上回る等のコメントが寄せられた。サービス業では不動産業やホテル、イベント設営業を中心に改善した。

先行きDIは▲7.7(今月比+11.1)と、マスク着用の緩和等、活動正常化に向かう期待感がある一方、人手不足の声も多く回復は厳しい。

柏の景気情報・産業別業況DI



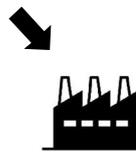
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「令和5年10月より石綿含有建材事前調査の義務化が始まる。柏市で事前調査の資格を取得している会社は多くない。業者や公共工事の現場管理をする市の方でも理解していない方がおり、動向が気になる(塗装工事)、「年度末に近づき受注増加。従業員不足は解消されず、期間内に仕上げるのは至難の業。人工を借りて間に合わせても、人工の支払が利益を圧迫(とび)、「物価高が続いているからか、一般顧客からの畳工事受注が減少(畳)」



製造業

「化粧品容器の受注は回復しないが、医療品容器はコロナ前に戻りつつある。昨年から続く材料と、電気料金的大幅値上げが利益を圧迫(プラスチック加工)、「受注は例年以上だが、半導体不足で製品が完成できず採算悪化(機械・同部品)、「コロナによるマイナスは減少してきたが、光熱費や仕入単価が上昇しており、効率化等で利益を上げる必要がある(酒類)、「原材料だけでなく段ボールやビニール袋等の副資材、運送費の値上がりを含めた、再度の価格改定交渉が必要(金属製品)、「売上減少に光熱費高騰が続き収益圧迫。来月13日からマスク着用等コロナ対策緩和で対応を検討(鉄鋼業)、「原油高、円安の影響で、昨年に続きオイル等あらゆる商材の値上げ要請がきている。販売価格へ反映させているが、需要低迷により売上マイナス(自動車付属品)」



卸・小売業

「景気はコロナ前の約70~80%。オケージョン等の強化でお客さまに喜んでいただければいい(大型小売店)、「節分は購入が恵方巻に集中。食品ロス削減のため売り切り時間が早かったがご理解いただけた。昨年は動かなかった旅行関連商品も動向が良い(大型小売店)、「原材料、特に卵の高騰が止まらない(洋菓子店)、「年度の変わり目でアルバイト・パートの調整が難しい。時給を上げるにも限度があり、慢性的に人手不足(各種商品小売)、「入店客数・取扱高ともにコロナ禍前を上回る推移まで伸長。一方でコスト高・人手不足から営業縮小を進めるテナントもある(百貨店)、「原材料、輸送コスト高騰で販売単価を上げて売上増加も、販売量は減少。粗利率は悪化。経費削減のため十分な従業員数を確保できない(種苗卸売)、「1月に続き2月も客足が伸びない。ペットフード、グッズの仕入上昇による価格転嫁も一因か。過ごしやすい気温になり、マスク着用が緩和される3月以降に期待(ペット用品小売)、「世界的な金利上昇により各国の経済が悪化している影響で、輸出業界はどこも低調(産業機械器具卸売)」



サービス業

「世論は子育て支援に注力しているが、地域産業の底上げがあつてこそではと危惧している(ソフトウェア)、「原材料の価格上昇が止まらず、人手不足も深刻(日本料理)、「当社関係者からの売却・購入相談が増加。当社では社会問題である空き家、空き地問題にいろいろ対応している(不動産管理)、「光熱費や教材費上昇に伴う月謝の引上げに理解を得られたが、今後の新規入会への影響が不安(学習塾)、「不動産バブル以来の地価の割高感を感じる(不動産賃貸・管理)、「作業人員の減少、高齢化で事業存続が危うい大小企業間のM&A助勢を試みたい(技術サービス)、「昨年10月に値上げし来場者は微減で売上は5%増も、賃上げや価格高騰で採算悪化(ゴルフ練習場)」

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲18.8に対し、「CCI-LOBO」が▲19.4で、柏の方がマイナス幅が0.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸・小売業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.8	 ▲ 21.0	 ▲ 27.7	 ▲ 30.3	 10.0
CCI-LOBO	 ▲ 19.4	 ▲ 31.9	 ▲ 18.4	 ▲ 25.9	 ▲ 8.6
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 2.2	 ▲ 15.7	 ▲ 27.7	 12.1	 10.0
CCI-LOBO	 ▲ 3.0	 ▲ 22.4	 ▲ 1.6	 ▲ 8.6	 10.0
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 26.6	 ▲ 36.8	 ▲ 38.8	 ▲ 30.3	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 26.7	 ▲ 37.2	 ▲ 29.5	 ▲ 28.4	 ▲ 18.7
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 71.1	 ▲ 68.4	 ▲ 94.4	 ▲ 75.7	 ▲ 45.0
CCI-LOBO	 ▲ 76.3	 ▲ 81.4	 ▲ 82.0	 ▲ 75.6	 ▲ 69.5
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 18.8	 26.3	 5.5	 18.1	 25.0
CCI-LOBO	 20.1	 33.8	 13.6	 15.1	 24.1
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.8	 ▲ 15.7	 ▲ 22.2	 ▲ 27.2	 ▲ 5.0
CCI-LOBO	 ▲ 16.9	 ▲ 11.4	 ▲ 18.4	 ▲ 24.0	 ▲ 17.9

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(1月速報)

調査期間：2023年2月10日～16日

調査対象：全国の329商工会議所が2,525企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、コスト増に価格転嫁が追いつかず悪化。先行きは、物価高と外需減退により慎重な見方

2月の全産業合計の業況DIは、▲19.4と、前月から▲1.0ポイントの悪化。小売業では、インバウンド需要の増加により、免税品や高付加価値商品の売上が堅調な百貨店を中心に改善した。一方、建設業では、公共工事の受注減少に加え、建設資材の高騰の影響で悪化した。製造業では、外需の減退から半導体等の電子部品関連を中心に悪化した。また、卸売業では、製造業関連の引き合いが減少し、力強さを欠いている。サービス業では、飲食・宿泊業を中心に需要は増加するも、人材確保等のコスト負担増の影響で、ほぼ横ばいに留まった。業種を問わず、人手不足や資源・エネルギー価格の高騰によるコスト増が続いている。仕入価格高騰のスピードに価格転嫁が追いつかず、中小企業の業況は悪化となった。

先行きについては、先行き見通しDIが▲19.2（今月比+0.2ポイント）と改善を見込む。5月8日の新型コロナウイルスの5類への移行に伴う活動正常化で、売上増加を期待する声が小売業・サービス業から聞かれた。一方、活動回復に伴うさらなる人手不足が懸念される。また、エネルギー価格高騰に対する激変緩和措置はあるものの、物価高や賃上げ等、企業のコスト負担増は続いている。米中関係の緊迫化や世界経済の鈍化で外需の減退も懸念される中、先行きは慎重な方となっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、製造業が悪化、卸売業、サービス業は横ばい、小売業種は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「民間工事の受注を増やしていきたいが、技術者不足により、受注を諦めるケースが増加している。企業説明会を開催し、採用に繋がる機会を創出するとともに、福利厚生の実や物価高に対応した賃金の引き上げ、労働環境の改善に努め、人材を確保していきたい」（一般工事業）、「公共工事は依然して減少傾向が続いている。また、公共工事は入札済み案件の価格交渉には条件があり、該当しないと採算割れとなる」（土木工事業）

は、都度行っている。一方で、年に数回仕入価格が上がっている商材もあるため、同一商材の再三の価格改定の実施は難しい状況である。エネルギー価格の高騰も重なっており、すべてを価格転嫁行えてはいない」（一般機械器具卸売業）、「需要が回復基調のため、人員増を進めたいが、人員を確保した矢先に需要が再度減少する可能性もあり、判断が難しい状況である」（食料・飲料卸売業）

【小売業】「一人の動きは戻ってきており、一層の売上回復を期待している。しかし、光熱費の高騰や、賃上げ圧力も重なり、収益悪化が懸念される」（百貨店）、「主要顧客である地域住民は依然として来店頻度は少なく、店舗売上は低迷が続いている。一方で、ネット販売の売上は好調のため、業態の変更や販売方法の転換などを進め、さらなる売上増加を図りたい」（茶類小売業）

【製造業】「部品不足が少しずつ解消され、生産増による売上回復を見込んでいたものの、需要が弱く、取引先からの発注量が減少している」（電気計測器製造業）、「一時は上昇した仕入価格分を、販売価格にすべて価格転嫁することができた。しかし、転嫁後に原材料が再度値上げされたり、電気代などのコスト増加が続いており、価格転嫁が追いつかない」（めん類製造業）

【卸売業】「仕入価格の上昇に伴う販売先への価格改定

【サービス業】「インバウンド需要や全国旅行支援の下支えもあり、観光需要は堅調に推移している。5類への移行により、日常生活の正常化も視野に

入ってきており、いままで停滞していた教育関係やスポーツ関連の事業を強化し、顧客獲得を図っていく」（旅行業）、「外出する人が増えたことで需要は回復しているが、光熱費の上昇が収益を圧迫しているため、技術料に転嫁できる気運づくりを求めたい」（美容業）

### 全国・産業別業況DIの推移

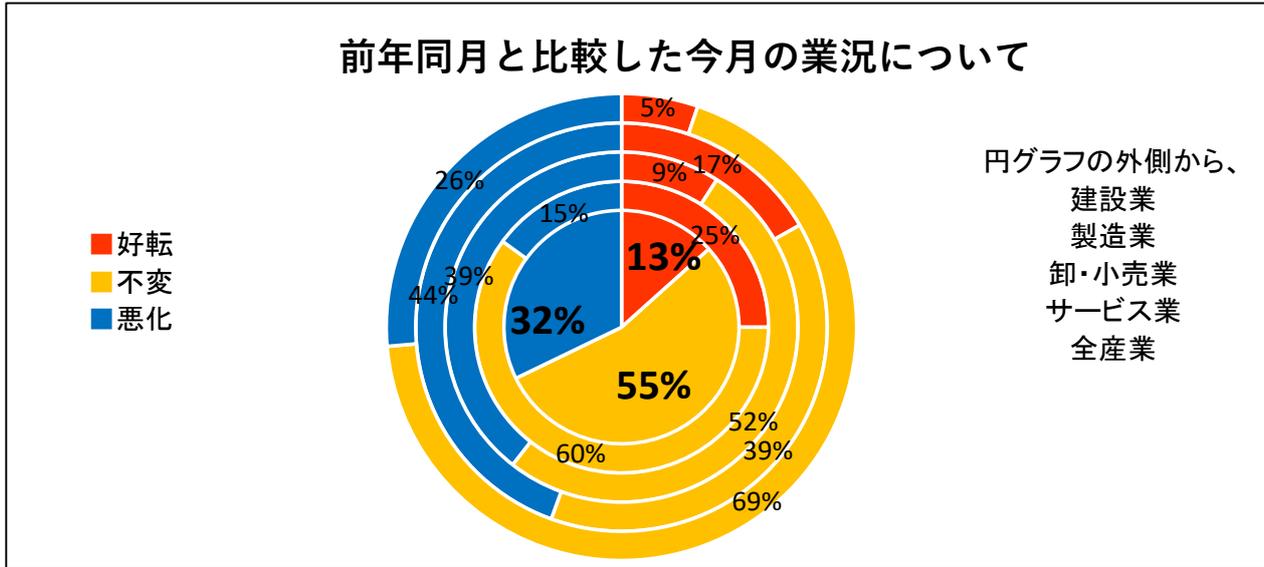
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲23.3	▲28.7	▲23.3	▲27.2	▲31.9	▲11.4
10月	▲20.7	▲29.9	▲20.1	▲21.1	▲29.4	▲8.1
11月	▲16.4	▲22.9	▲16.2	▲20.3	▲23.9	▲4.5
12月	▲18.4	▲27.2	▲14.2	▲16.3	▲32.1	▲7.0
1月	▲18.4	▲25.1	▲16.9	▲17.3	▲27.1	▲8.8
2月	▲19.4	▲31.9	▲18.4	▲16.4	▲25.9	▲8.6
見通し	▲19.2	▲23.7	▲18.8	▲16.8	▲27.2	▲11.2

# 令和5年（2023年）2月の動向

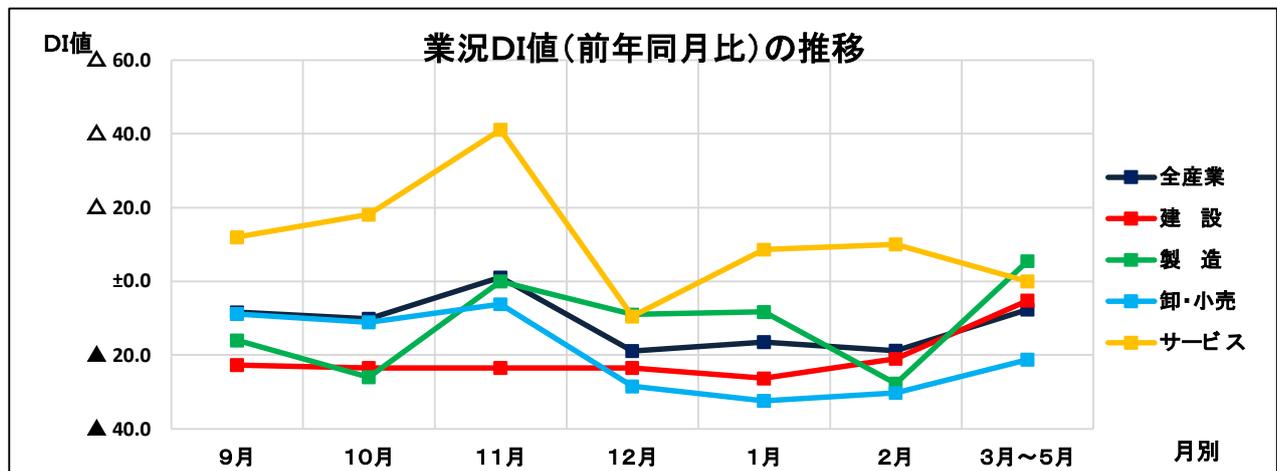
## 【業況について】

- 2月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲18.8（前月水準▲16.5）となり、マイナス幅が2.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（3月から5月）の先行き見通しについては、全産業では、▲7.7（前月水準▲11.6）となり、マイナス幅が3.9ポイント縮小する見通しである。



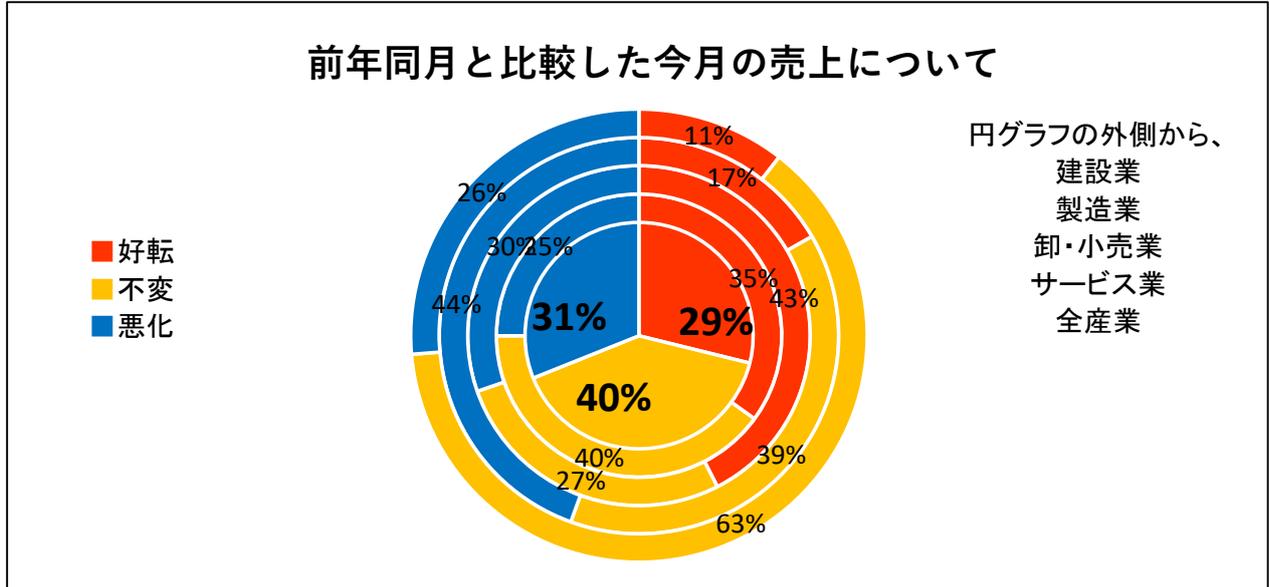
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年					令和5年	先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~5月（2月~4月）	
全産業	▲8.4	▲10.2	△1.1	▲18.9	▲16.5	▲18.8	▲7.7（▲11.6）	
建設	▲22.7	▲23.5	▲23.5	▲23.5	▲26.3	▲21.0	▲5.2（▲21.0）	
製造	▲16.0	▲26.0	±0.0	▲9.0	▲8.3	▲27.7	△5.5（±0.0）	
卸・小売	▲8.8	▲11.1	▲6.2	▲28.5	▲32.4	▲30.3	▲21.2（▲24.3）	
サービス	△12.0	△18.1	△41.1	▲9.5	△8.6	△10.0	±0.0（△4.3）	



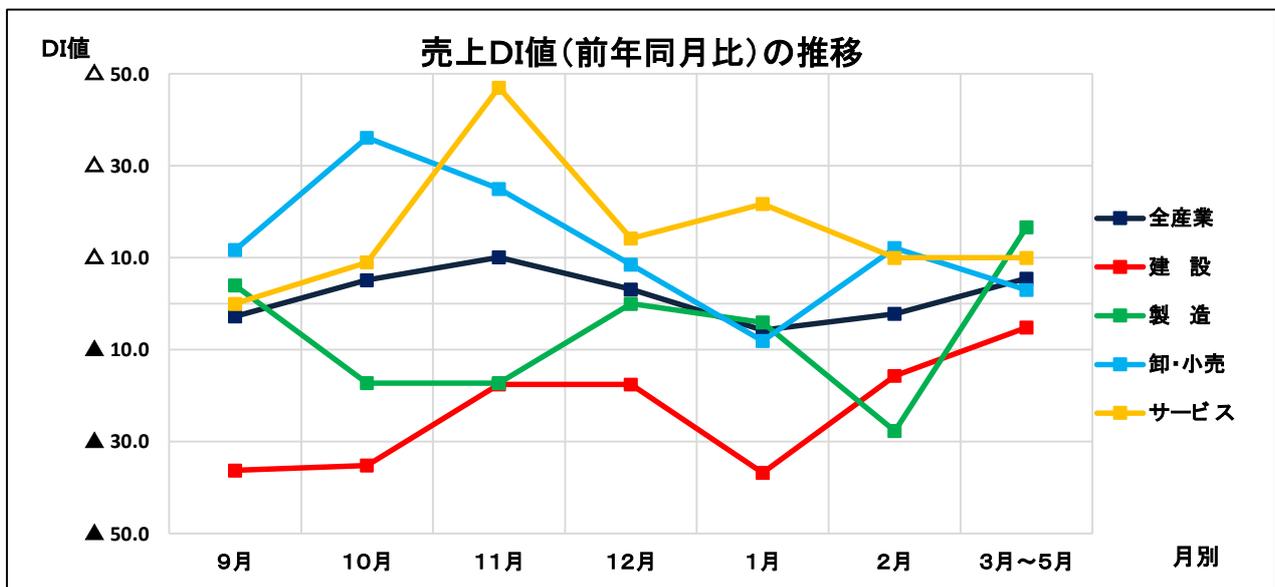
【売上について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.2(前月水準▲5.8)となり、マイナス幅が3.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△5.5(前月水準▲4.8)となり、マイナス幅が10.3ポイント縮小する見通しである。



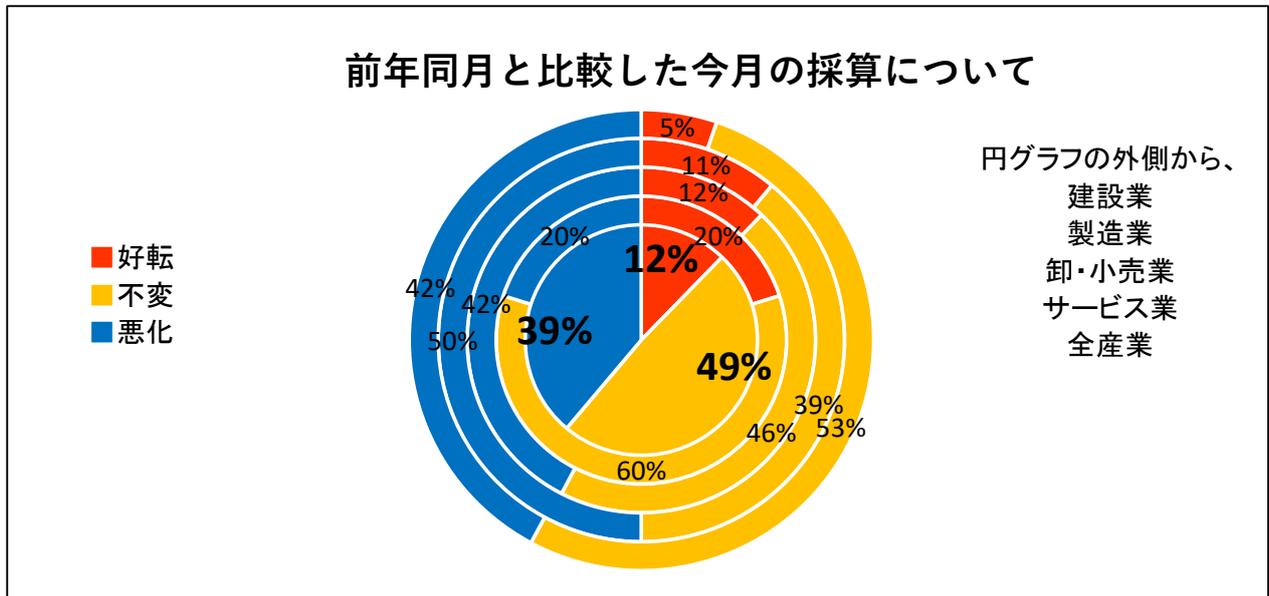
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和4年				令和5年		先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
全産業	▲2.8	△5.1	△10.1	△3.1	▲5.8	▲2.2	△5.5(▲4.8)
建設	▲36.3	▲35.2	▲17.6	▲17.6	▲36.8	▲15.7	▲5.2(▲10.5)
製造	△4.0	▲17.3	▲17.3	±0.0	▲4.1	▲27.7	△16.6(▲8.3)
卸・小売	△11.7	△36.1	△25.0	△8.5	▲8.1	△12.1	△3.0(▲13.5)
サービス	±0.0	△9.0	△47.0	△14.2	△21.7	△10.0	△10.0(△17.3)



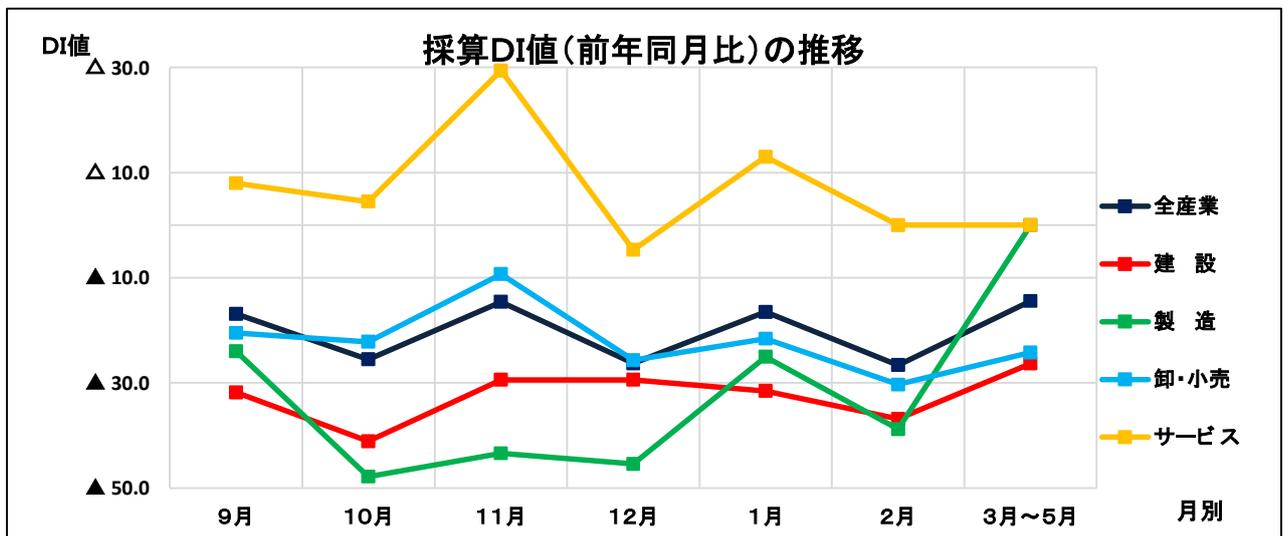
【採算について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.6(前月水準▲16.5)となり、マイナス幅が10.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲17.4)であり、マイナス幅が3.0ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

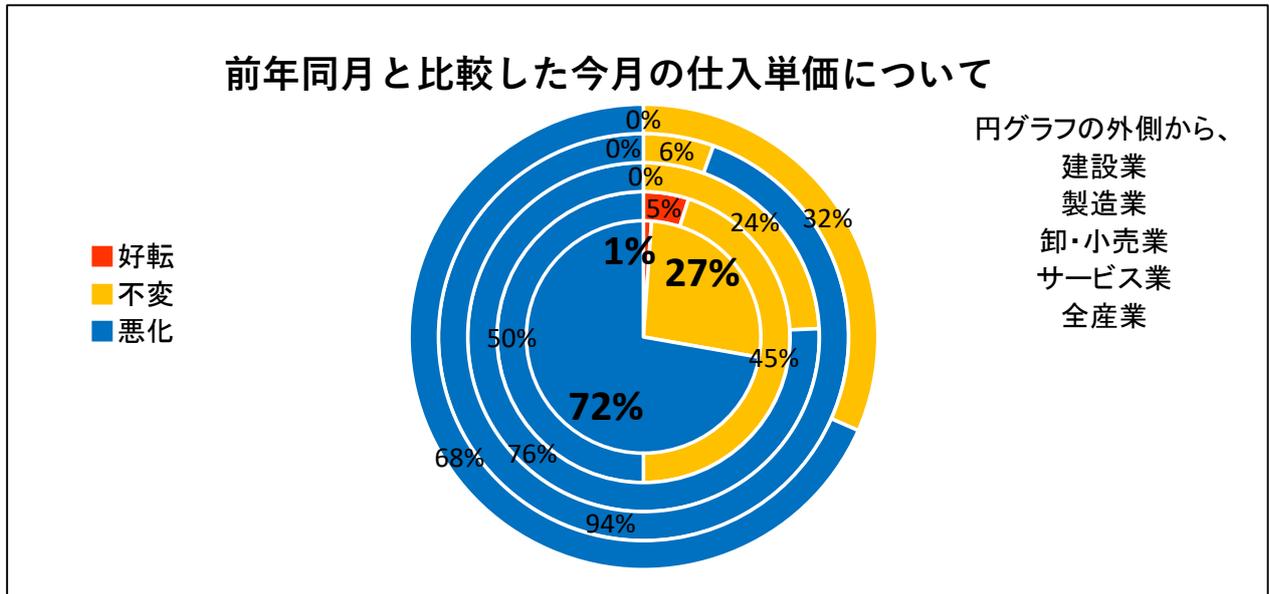
	令和4年				令和5年		先行き見通し
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~5月(2月~4月)
全産業	▲16.9	▲25.5	▲14.6	▲26.3	▲16.5	▲26.6	▲14.4(▲17.4)
建設	▲31.8	▲41.1	▲29.4	▲29.4	▲31.5	▲36.8	▲26.3(▲10.5)
製造	▲24.0	▲47.8	▲43.4	▲45.4	▲25.0	▲38.8	±0.0(▲20.8)
卸・小売	▲20.5	▲22.2	▲9.3	▲25.7	▲21.6	▲30.3	▲24.2(▲32.4)
サービス	△8.0	△4.5	△29.4	▲4.7	△13.0	±0.0	±0.0(△4.3)



【仕入単価について】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲71.1(前月水準▲66.0)となり、マイナス幅が5.1ポイント拡大した。

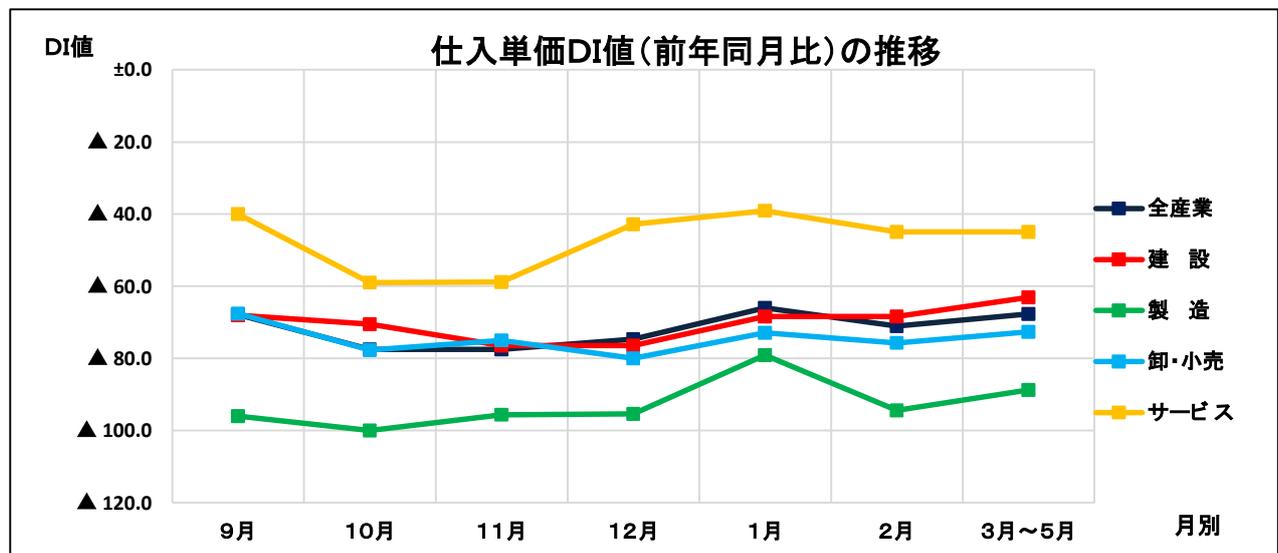
○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲67.7(前月水準▲65.0)となり、マイナス幅が2.7ポイント拡大する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移

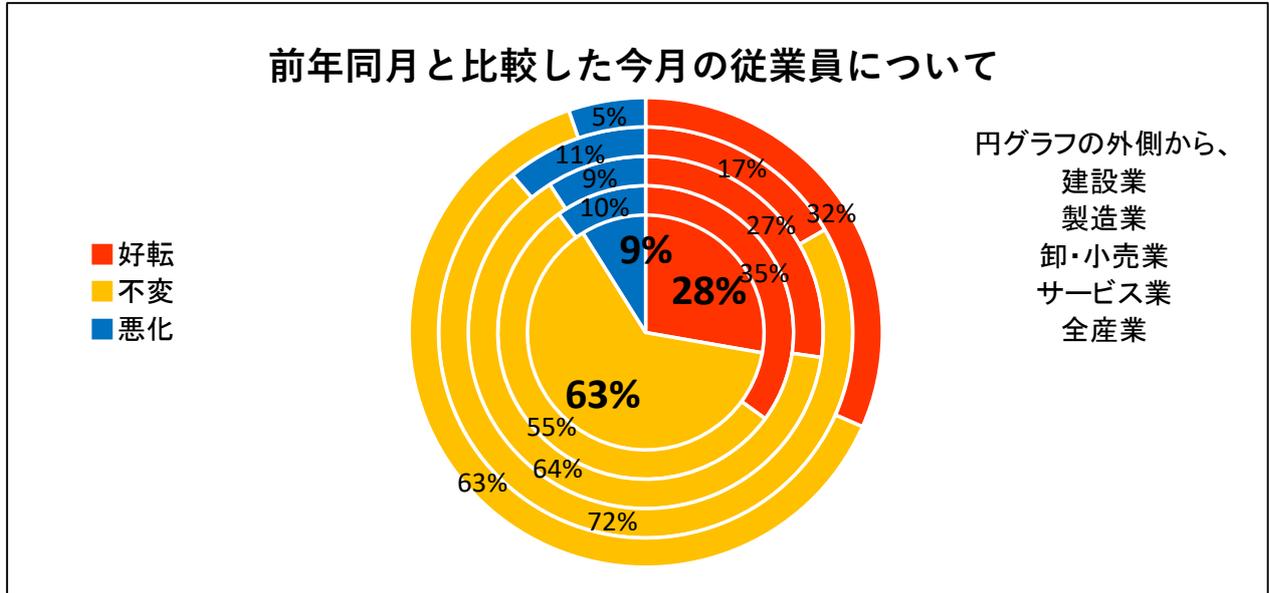
※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和4年				令和5年	先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~5月(2月~4月)
全産業	▲67.9	▲77.5	▲77.5	▲74.7	▲66.0	▲71.1	▲67.7(▲65.0)
建設	▲68.1	▲70.5	▲76.4	▲76.4	▲68.4	▲68.4	▲63.1(▲52.6)
製造	▲96.0	▲100.0	▲95.6	▲95.4	▲79.1	▲94.4	▲88.8(▲87.5)
卸・小売	▲67.6	▲77.7	▲75.0	▲80.0	▲72.9	▲75.7	▲72.7(▲72.9)
サービス	▲40.0	▲59.0	▲58.8	▲42.8	▲39.1	▲45.0	▲45.0(▲39.1)



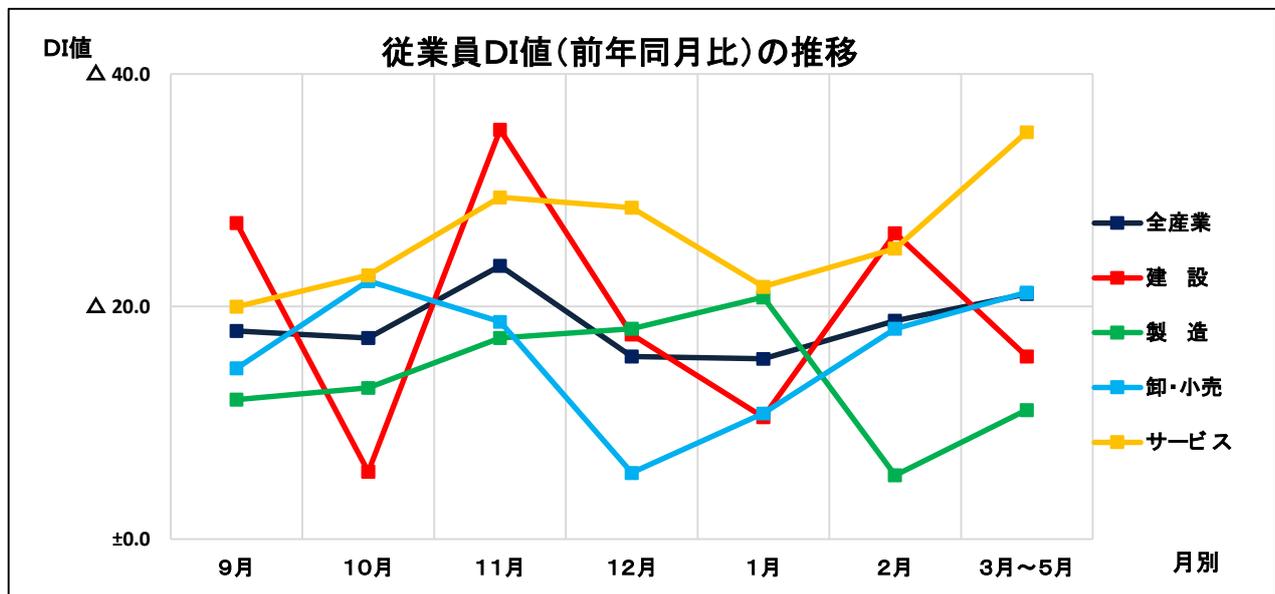
【従業員について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△18.8(前月水準△15.5)となり、プラス幅が3.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△21.1(前月水準△20.3)となり、プラス幅が0.8ポイント拡大する見通しである。



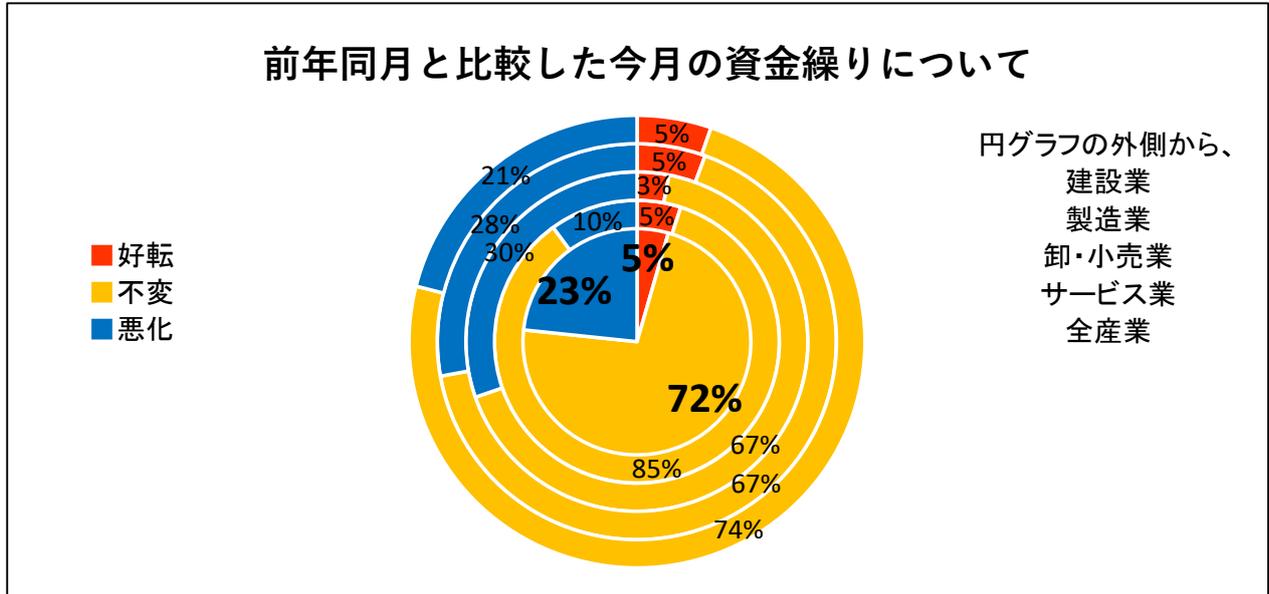
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和4年				令和5年	先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~5月(2月~4月)
全産業	△17.9	△17.3	△23.5	△15.7	△15.5	△18.8	△21.1(△20.3)
建設	△27.2	△5.8	△35.2	△17.6	△10.5	△26.3	△15.7(△36.8)
製造	△12.0	△13.0	△17.3	△18.1	△20.8	△5.5	△11.1(△16.6)
卸・小売	△14.7	△22.2	△18.7	△5.7	△10.8	△18.1	△21.2(△13.5)
サービス	△20.0	△22.7	△29.4	△28.5	△21.7	△25.0	△35.0(△21.7)



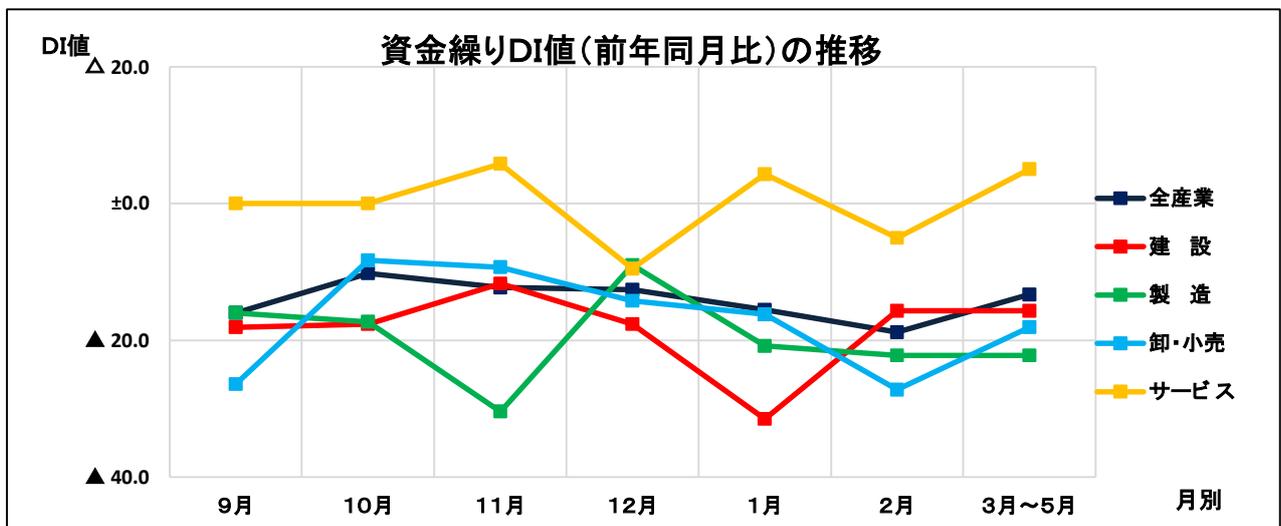
【資金繰りについて】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.8(前月水準▲15.5)となり、マイナス幅が3.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.3(前月水準▲16.5)となり、マイナス幅が3.2ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年				令和5年		先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
全産業	▲16.0	▲10.2	▲12.3	▲12.6	▲15.5	▲18.8	▲13.3(▲16.5)
建設	▲18.1	▲17.6	▲11.7	▲17.6	▲31.5	▲15.7	▲15.7(▲26.3)
製造	▲16.0	▲17.3	▲30.4	▲9.0	▲20.8	▲22.2	▲22.2(▲29.1)
卸・小売	▲26.4	▲8.3	▲9.3	▲14.2	▲16.2	▲27.2	▲18.1(▲21.6)
サービス	±0.0	±0.0	△5.8	▲9.5	△4.3	▲5.0	△5.0(△13.0)

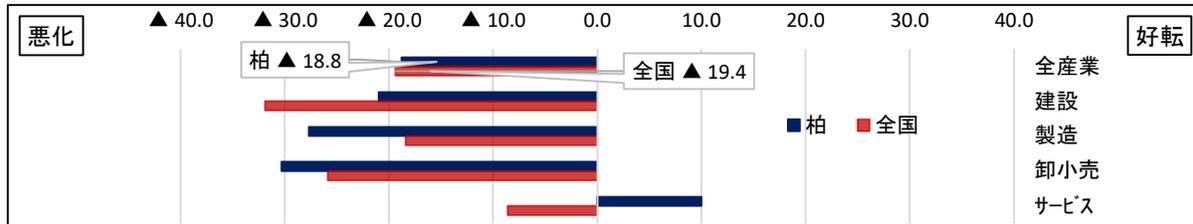


# 全国（CCI-LOBO）との比較

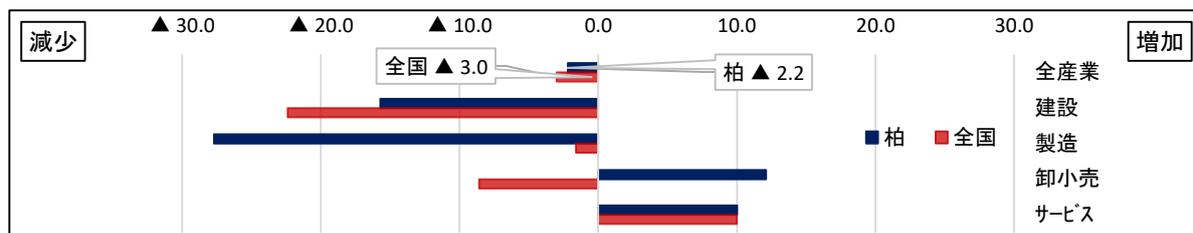
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

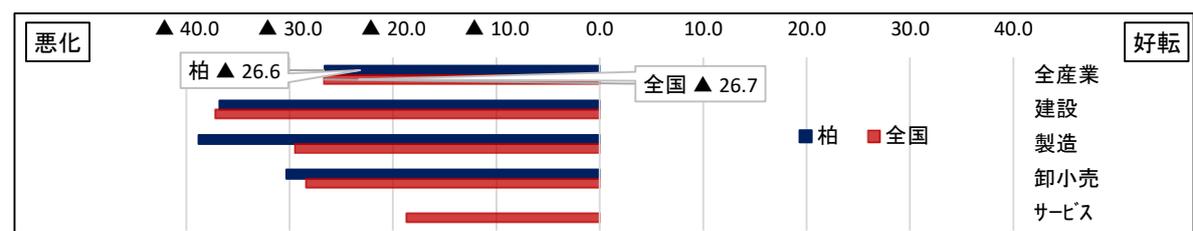
### 【業況D I】



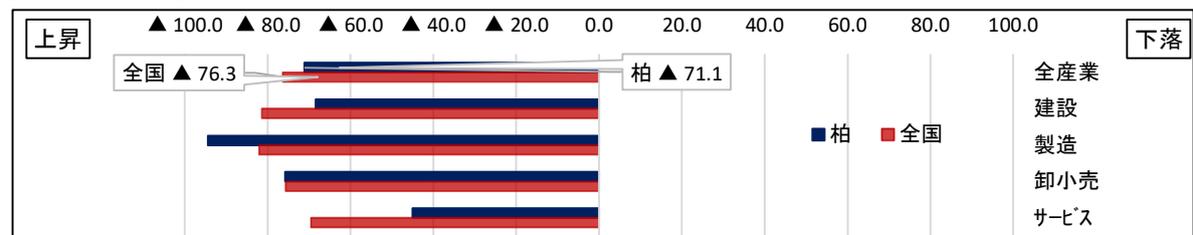
### 【売上D I】



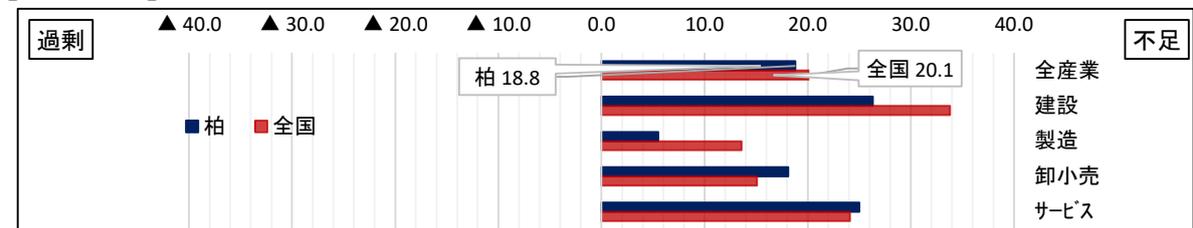
### 【採算D I】



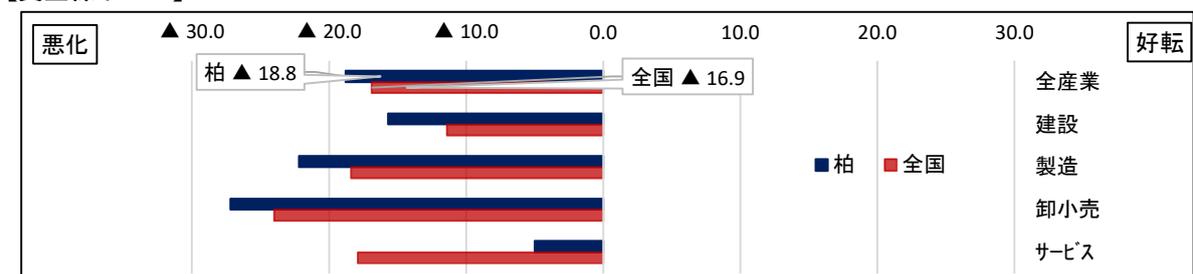
### 【仕入単価D I】



### 【従業員D I】



### 【資金繰りD I】



## 【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	令和5年10月より石綿含有建材事前調査の義務化が始まるので建設業界は大きく変化すると思います。事前調査の資格を元請が取得していないと厚生労働省への報告ができませんが、現在の柏市の建設業界でこの資格を取得している会社はそれほど多くない、むしろこの法律が施行されることすら知らない業者が存在するほどです。公共工事に関しても、柏市役所の現場管理をする建築技士の方も理解していない方がほとんどなので、今後どうなるか動向が気になります。	塗装工事業
	年度末に近づき受注は増えているが、従業員不足は解消されずに、期間までに仕上げるのは至難の業。他から人工を借りて工期を間に合わせることができても、借りた人工の支払いは少ない利益なのに利益を大きく圧迫する。	とび
	物価高が続いているからか、一般顧客からの畳工事受注が減少。	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	化粧品容器の受注に回復傾向は見られないが、医療品容器に関してはコロナ以前に戻りつつある。昨年より続く材料単価の値上がり、ここにきて電気料金的大幅値上がりにより更に利益を圧迫している。	プラスチック加工
	受注は例年以上にあるが、半導体不足による影響で製品が完成出来ずに採算が悪化している。	機械・同部品製造業
	依然としてコロナ禍や半導体不足等々の厳しい外部環境の受けており、業績が悪化する一途を辿っております。	電子応用装置製造業
	新型コロナウイルスの影響によるマイナスは減少してきたが、ユーティリティを始めとした仕入れ単価が上昇している為、効率化等で利益を上げていく必要がある。	酒類製造業
	原材料だけでなく段ボールやビニル袋などの副資材、運送費の値上がりがある。これらを含めた再度の価格改定の交渉が必要。退職予定者がいるが補充せず。	金属製品
	売上減少に光熱費の高騰が引き続き、収益圧迫で厳しい状況。来月13日からマスク不着用等コロナ対策緩和で対応検討中。	鉄鋼業
	原油高、円安の影響として商材としてのオイル等、昨年に引き続き値上げの要請が来ている。あらゆる商材の値上げ要請が止まらない。販売価格へ反映させ材料・電力費の高騰、その他仕入上昇により、利益圧迫し非常に厳しい。人員不足で育成が要。DX、カーボンニュートラル、SDGsは中小企業にとっても重要。	自動車付属品製造業
	コロナ前からの景気の状態は、約70%~80%戻ってきておりますが、まだまだ取りこぼししております。オケージョン等の更なる強化をして、お客さまに喜んでいただけるように取り組んで参ります。今後とも宜しくお願い致します。	大型小売店
	節分は購入が恵方巻に集中。食品ロス削減のため売り切れ時間が早かったが、ご理解いただけました様子。昨年は動きがなかった旅行関連商品も動向が良い。	大型小売店
	原材料、特に卵の高騰が止まらない。4月には原材料全般更なる値上げがかかるので販売価格変更を検討。	洋菓子店
	年度の変わり目にきて、アルバイト・パートの調整が難しい。時給を上げるのにも限度があり、慢性的に人手不足となってきた。	各種商品小売業
	入店客数・取扱高共にコロナ禍前を上回る推移まで伸長。一方でコスト高・人手不足から営業縮小で進めるテナント様も見え始めた。	百貨店

## 【業種別】業界内トピックス

卸・小売業	<p>コロナ支援制度の時も感じたのだが、この度中小企業庁からのプロポーザルで今年から始まるコロナ制度融資の返済の先送りが延長されることになった。しかし休日返上してまで業績回復させていたら、コロナ制度融資の返済先送りは受けられないという。業績回復のために真面目に取り組んでいる企業は恩恵を受けられず本末転倒である。</p>	自動車卸売業
	<p>原材料の高騰、輸送コストの高騰により販売単価を上げざるをえず、売上は増えたが販売量は減っている。粗利率は悪化している。経費削減のため、十分な従業員数を確保できない。</p>	種苗卸売業
	<p>1月に続き2月も客足が伸びず、厳しい状況が続く。例年1、2月は売り上げが低迷する傾向にあるが、今年はコロナ禍にあった昨年より悪い。ペットフード、グッズの仕入れ価格の上昇傾向は続いており、価格転嫁せざるを得ない状況が続いていることも一因か。過ごしやすい気温になり、マスク着用が緩和される3月からの消費に期待したい。</p>	ペット用品小売業
	<p>世界的な金利上昇によって各国の経済が大分悪化している影響で、輸出業界はどこも低調な気がします。国内も電気代上昇によって廃業の案件がチラホラ目立つようになってきました。一本足の会社はちょっと厳しい状況になる気がします。</p>	産業機械器具卸売業
	<p>主原料である生クリームと卵の価格上昇が深刻。</p>	洋菓子店
サービス業	<p>子育て支援に注力されてる世論であるが、地域産業の底上げがあつてはと、危惧してる、政治家の皆さん足元を見あたして基本を定めてもらいたいと思います。</p>	ソフトウェア業
	<p>原材料の仕入れ価格の上昇が止まらず。人手不足も深刻。</p>	日本料理
	<p>当社の関係者からの売却・購入相談が増えています。今、空き家、空き地問題が社会で取り上げられていますが、当社でもいろいろ対応しています。世の中が急激に変化していますので、それに対応していくことが大事でしょう。</p>	不動産管理業
	<p>光熱費や教材費の上昇に伴う月謝の引き上げ(概ね5%ほど)については、保護者面談や手紙などでそれなりの理解を得ることができたが、今後の新規入会者の動向にどのように影響が出るのかは不安がある。</p>	学習塾
	<p>バブルでなければよいのですが、不動産バブル以来の地価の割高感を感じています。</p>	不動産賃貸・管理業
	<p>駅前の賑いには柏まつり・東口エリアはダブルデッキ下に出店、マルイ前にステージと以前に戻さないと駄目です。案内所は駅出たダブルデッキ正面に置くのが普通だと思います。防災・回遊は言い訳になりません。</p>	不動産賃貸業
	<p>先月と同じ状況、つまりよくはなっているものの、安定とはまだ言えません。</p>	専修学校、各種学校
	<p>従来は、環境装置計画アドバイザーとして運用してきたが、本年度は大小企業間のM&amp;Aを働きかけを助勢し報酬を得るといった新たな挑戦をしてみたい。(優良企業でも作業人員の減少と高齢化に伴う事業の存続が危ぶまれているところがあるので何とか事業継承できるよう橋渡しを試みたい。)</p>	技術サービス業
	<p>昨年10月に値上げをした結果来場者は微減であったが売上が5%ほど伸びている。しかし賃上げやエネルギー価格の高騰を受けて採算は悪化の傾向にある。</p>	ゴルフ練習場

# 調査要領

回答期間

令和5年2月21日 ~ 令和5年3月2日

調査対象

柏市内142事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	142	91	64.1%
建設	32	19	59.4%
製造	35	19	54.3%
卸・小売	43	33	76.7%
サービス	32	20	62.5%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				